

# 国語教育 相談室

中学校

No.53

国語教育相談室  
No.53

特集

## 国語力を高める 「読書」のあり方

「全国学力・学習状況調査」に見る読書指導の方向性 高木まさき

座談会 「広がる読書の可能性」 上谷順三郎・甲斐利恵子・塩谷京子

巻頭エッセイ

ことばと呪 滝田洋二郎



新連載 — 教師力講座 国語科は、年中生徒と話ができる教科です

新連載 — 教材の径 『走れメロス』定番授業の先へ

豊かな書写指導のために

光村図書

光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.117 定価126円(税込)

2007(平成19)年9月28日発行

発行人=常田 寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

E-mail: [koho@mitsumura-tosho.co.jp](mailto:koho@mitsumura-tosho.co.jp)

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

座談会撮影=長谷川 直紀(代官山スタジオ)

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

# Contents

## 探検！言葉の森②

まぼろしの大金持ち、ゲッキョクさん ..... 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う ことばと呪 ..... 滝田洋二郎



特集—

## 国語力を高める「読書」のあり方

「全国学力・学習状況調査」に見る読書指導の方向性 ..... 高木まさき

座談会「広がる読書の可能性」 ..... 上谷順三郎・甲斐利恵子・塩谷京子

学校図書館レポート 地域の力を生かした学校図書館づくり  
—東京都目黒区立第八中学校の取り組み—

実践提案 ① 本一冊を丸ごと授業で扱う ..... 新しい指導を考える会

実践提案 ② 読書っていいかも！ ..... 新しい指導を考える会

## 教師力講座①

国語科は、年中生徒と話ができる教科です ..... 甲斐利恵子

## 安居總子の国語教室⑯

問われる教師力 ..... 安居總子

## 教材の径 1

『走れメロス』定番授業の先へ ..... 松野洋人

豊かな書写指導のために

## 新しい書写実践の試み⑤

伝統文化に親しもう ..... 樋口咲子

## 書写が目ざすもの⑳

書写の知識を確認するための問題サンプル ..... 宮澤正明

## 探検！言葉の森②

京都教育大学教授

もりやま  
森山 卓郎 たくろう



## まぼろしの大金持ち、ゲッキョクさん

確か私が高校生のころの会話。

弟（当時小学校六年）「おにいちゃん、日本にはものすごい金持ちの人がいるで」

私「へえ、どんな人や？」

弟「あちこち、いっぱい駐車場をもってる人や」

私「へえ、なんちゆう人？」

弟「ゲッキョクさん、いうのや」

私「ふうん、珍しい名前やな。漢字は？」

弟「『月』『極』や。『月極ガレージ』という会社やってはんのや」……

もちろん、「月極」は、「月ぎめ」。「ゲッキョク」さんは、はたして、まぼろしの大金持ちなのであった。

しかし、確かに身の回りの漢字には、なぜそう読むのかがわかりにくいものもある。例えば、「春日」。もちろん「はるひ」と読んでは、「かすが」と読むことになっている。なぜ「春日」が「かすが」というと、「春の日」が「かすか」にかかる枕詞ということからきた読み方である。「春の日のかすか」という組み合わせが、いつしか「春日」かすが」という読み方になったのである（「カスガ」と最後の音は濁っているのだが、このあたりの事情はよくわからない）。

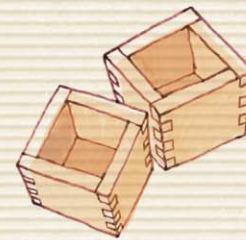
「飛鳥」もそうだ。奈良時代初期の政治の中心地、「アスカ」だが、なぜ「飛鳥」なのかというと、これも枕詞が関わっている。「飛ぶ鳥の」が「あすか」の枕詞だったことから、いつしか「飛鳥」自体が「あすか」と読まれるようになっていたのだ。

古代人は、ちよつとしゃれたつもりだったのかもしれないが、二十一世紀に漢字を学習するよい子たちにとっては、ややこしい話である。

しかし、現在でも、たとえば飲み屋さん

などで「二升五合」と書いてあるところがあったりする。「ますますはんじょう」というわけだ。「騎士」と書いて「ない」と読むという人名もあると聞く。日本人は漢字が大好きなのだ。

さて、例の「月極」だが、「きめる」を「極」を使って書くことは以前はあった。「なんでもいゝ、早（はや）く極（きめ）ねへ。」（浮世風呂）のような感じだ。「月極」はそうした名残と考えられる。なんのことはない、かなりノーマルな漢字の使い方である。そんな「月極駐車場」。いっそ、「月極」（「げつきよく」と読む）という駐車場の会社名を登録してしまう、というのもアリかも？



# ことばと呪しゅ

感覚的なことや心象、創ろうとする映画の色、あるいは、なんとなくイメージする音楽を言葉にすることは、とてもむづかしい。

強く、印象的であればあるほど、その言葉に服従してしまうし、あいまいな言葉なら、何も彼もがあいまいになってしまう。

とはいえ、見えない何かに悩みながらも進まぬ現実には、沈黙、言葉、思考を繰り返している内に、何かがストンと降りて来て、思わぬ喜びに出くわすこともあるから、映画創りはおもしろい。

昨年、あさのあつこさん原作『バッテリー』を映画化した。大ベストセラーだけあって製作側の士気も高く、僕自身も

「中学一年生にして一五〇キロ近い球を投げる天才ピッチャーでありながらも、すべての価値観が信ずる野球だけであるという、少年

の純粹さと、同時に、極端な脆さや危うさを併せもつ少年期独特のアンバランスさを、魅力的に、社会の縮図である学校教育という場で描いてみたい」

という意気込みで取り組んだ。が、これは単なる意思表示の言葉であって、何をどう魅力的に具体として見せるのか、あるいは忍ばせるのが一番重要で大切なことだ。

小説の映画化は意外に難しい。

言うまでもなく、小説は言葉が命であり、言葉が想像力をかき立て感動に導く。

一方、映画は直接的に人物、背景を見せながらも、映画的時間の中で、省略・構成を計算し、何よりも、言葉に表現されていない何かを見つけ、映し出すことで映画としての感動を与えなければ、小説を映画化する意味はないと思う。

映画はシナリオが命である。

『バッテリー』においても映画の方向をめぐり、さまざまなディスカッションがあったが、全六巻の長編物語を、二時間の枠の中に詰め込まなければならぬことが問題だった。

- ・家族を中心にファミリー物に
- ・弟の病気を軸に難病物に
- ・野球のドラマを劇画風にデフォルメして
- ・ヒロインを膨らませ、少年との恋物語に
- ・最初から原作に忠実に、パートⅢまで
- ・この映画のテーマは？
- などなど

原作に対する皆の思い、こだわりが強すぎて、どれもが中らずと雖も遠からず、創作につきものの出口探しの状態に陥った。

こんな時は何度も何度も小説を読み返し、ただひたすらにその言葉を噛み砕くしかない。

たとえ原作の設定を大幅に変えても、その言葉を削っても、映画を撮る僕自身が独自の解釈をする権利をもつ、と覚悟することだろう。

当たり前のことだけど、映画は光だ。光の中にテーマはない。その光を受けた観客が、映画という光によって自らの内に潜んでいたテーマを発見する。方向をもたない光が、観客を通して、初めて方向を与えられる。

映画を豊かに結実させる大きな要素は、決して語るまいとする意志だと思う。

言葉を惜しみ、説明を惜しむ。

映写機から光が放たれたとたん、光はスクリーンに跳ね返り、観客の胸に突き刺さる。やがて光は、観客の胸の中でゆつくりと溶け出し、何時間か何日かを経たのち屹立する。

映画そのものが一つの言葉となって観客に届けば、いつも思う。

以前監督した『陰陽師』（夢枕獏原作・脚本）という作品の中に、僕の好きな言葉がある。

安倍晴明（陰陽師）と源 博雅（宮廷貴族）

による、「呪」をめぐる会話である。

博雅「晴明殿の言う、その『呪』とは、つまりなんなのだ」

晴明「そうですね。例えばこの世で一番短い

『呪』は、『名』ということになりましたよ  
うか」

博雅『名』？ 晴明とか博雅という『名』のことか」

晴明「はい。『呪』とは要するに、ものや心を縛ること」

博雅「ものや心を縛る？」

晴明「あなた様は源博雅という『名』で縛られております。その『名』がなければ……」

博雅「……わたしはいなくなってしまうということか」

晴明「いいえ。『名』はなくとも、あなた様がこの世からいなくなるということではありません」

博雅「何を言っているかわからぬ」  
何を言っているかわからぬ様で、わかる気はする。

教育とは、社会、常識、普通、愛、幸福、人生、文化、芸術、伝統、ナシヨナリズム、自由、神、心、日本人、宇宙とは……

当たり前に受けとめている言葉はたくさんあるが、いつ、誰が決めたかもわからない「名」、ことばの「呪」に、皆が縛られすぎている気がするの、僕だけではないだろう。

映画監督

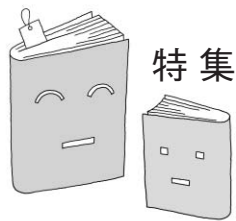
滝田 洋二郎



滝田 洋二郎（たきた ようじろう）

1955年富山県福岡町（現高岡市）生まれ。

86年「コミック雑誌なんかいない!」がニューヨーク映画祭、カンヌ映画祭で絶賛され、注目を集める。以降、エンターテインメント性に優れた話題作を発表し続けており、現在、日本映画界を代表するヒットメーカーとして活躍中。主な作品に「病院へ行こう」、「僕らはみんな生きている」、「秘密」、「陰陽師」、「壬生義士伝」、「バッテリー」などがある。



特集

# 国語力を高める 「読書」のあり方

## 「全国学力・学習状況調査」に見る読書指導の方向性

横浜国立大学教授 高木 まさき

本年四月に「全国学力・学習状況調査」（以下、「全国学力調査」）が実施された。この背景には、簡単に言えば、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」と「PISA」があった。前者はより教養主義的な国語力を、後者はより実用主義的な言語力を重視していた。次期「学習指導要領」も、これらの影響を強く受けることになる。

さてこの両者のうち、前者が「読書指導」の重要性を強調したことは周知の通り。しかし後者については「読解力」が話題となったため、「読書指導」との関係は見えにくい。だがそこにこそ、これからの「読書指導」を考えるうえで重要なヒントが隠されている。

そもそもこの「読解力」の原語は、「reading literacy」である。「reading」という概念は、普通「読解」と「読書」を区別しない。その意味で「PISA」が突き付けた「読解指導」の課題は、そのまま「読書指導」の課題ともみなせる。事実、「PISA」の背景にあった欧米の「reading」の指導では、読みの対象も多様（本、新聞、雑誌、図表、ホームページなど）で、読みのプロセス（精読だけでなく多様な読み方、選書に関わる表紙やタイトルの読み、読後の評価など）も丁寧に扱う。情報化社会における学習者の「読書生活」を見据えているのだ。

そういう目で「全国学力調査」を見直してみる。中学国語B問題「蜘蛛の糸」の問題では、一種の教養が問われている。読み方も精読よりは、大づかみな読み、ただ理解するのでなく評価的な読みも求められている。「本の広告カード」問題は、選書に関わるポップが素材。「ロボット」調べの発表原稿の問題では、ホームページの読みや映像資料の扱いが問われた。また、同A問題では新聞などでよく目にするグラフの読みが問題された。

このように見てみると、「全国学力調査」は、単に新奇な問題が出題されたわけではなく、学習者が直面している情報化社会における「読書生活」を視野に入れた出題であったことがわかる。「読解と読書」「教科書教材と本」といった単純な二分法を脱し、子どもたちの「読書生活」に根ざした、あるいは「読書生活」をデザインしていく、そんな「読書指導」の進むべき方向性を「全国学力調査」は示唆しているのではないだろうか。

高木 まさき（たかぎ まさき）  
横浜国立大学教育人間科学部教授  
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 国語専門部会委員  
元文部省教科書調査官

## 座談会

### 「広がる読書の可能性」

鹿児島大学 准教授

上谷 順三郎

台東区立御徒町台東中学校 教諭

甲斐 利恵子

静岡市立森下小学校 司書教諭

塩谷 京子

### 読書の質をどう高めていくか

甲斐 今、子どもたちの「活字離れ」が問題視されていますが、自分の教室の実感からすると、子どもたちは本をけっこう読んでいるという印象があるのです。

上谷 読書量に関しては、たしかにその通りだと思います。毎日新聞社の「学校読書調

査」（※1）を長いスパンで見ると、中学生の1か月の平均読書冊数は増えてきていると言えます。

塩谷 わたしは、この調査結果を新聞で見るときに、小学生の平均読書冊数にたいへん驚きました。前回（二〇〇五年）調査のときよりも2.0冊増えて、9.7冊と、急激に伸びているのです。毎日新聞では、増えた理由の一つとして、「朝の読書」を挙げていましたが、わたしが勤務している静岡市でも、朝読書の実施率は非常に高いのです。甲斐先生が「読んでい」と感じられるのは、小学校でのこのような流れがあるからだと思います。

上谷 朝読書の裾野が広がって、読むことに対して抵抗感が少なくなっているのかもしれないですね。「読書へのアニマシオン」（※2）を取り入れる学校も増えてきましたから、子どもたちの読書への意識が変わってきていると言えます。

量はたしかに増えてきているのですが、国語の力に関わらせていこうとすると、それだけではダメなんですね。大事な点は、子どもたちの実態を踏まえて、質の指導をどうするかだと思います。ジャンルを広げていけるような質の深まりを考えていく必要があると

思います。

また、中学生では読書冊数のわりに、読書の時間が少ないという現状もあります。読んでいる本の質や種類、時間にも目を向けると、これからの指導のあり方が見えてくると思います。

### 人を介することが読書意欲につながる

甲斐 わたしが教員に成り立てのころは、児童文学が大人の文学かというようにヤングアダルトの本が非常に少なかったですね。最近、あさのあつこさんに代表されるようなヤングアダルトの分野が充実してきているように思います。

塩谷 今の自分と等身大の人物を描いてくれる作家がたくさんいますね。例えば、森絵都さんの『カラフル』は、子どもたちが今のままの自分で、そのまま入っていけるようです。翻訳ものでは、金原瑞人さんなどは、子どもたちがわくわくするような作品を提供してくださっていますね。

甲斐 ヤングアダルトが充実している一方で、子どもたちは、わたしの感覚をどんどん突き崩していった、大人の分野に平気で入り

込んでくることがあります。『博士の愛した数式』はすごくおもしろい。」と生徒に言われたときには、「この作品のおもしろさを中学生が語ってしまうの！」と驚いてしまいました。でもこの生徒が特別なのではなく、メディアで人気のタレントが「感動した。」などと言うと、すぐに影響されて手を伸ばすことがあるんですね。

**上谷** 中学生では、読む本を決めるとき、「友達の紹介」というものが動機となることが多く見られます。逆に残念なのは、先生方があまり本を薦めていないことです。もっとも、先生に薦められたら読みたくないという反感をもつこともあるのでしようが（笑）。しかし怯まずに、先生方は薦め続けてください。

**甲斐** やはり、教師自身が、「読書は楽しい。こんなにもおもしろい。」と思うことが大切ですね。よい作品に出会ったとき、人は気持ちが開かれて、この喜びを分かち合いたいと思う。人とつながっていいこうとする。読書そのものに、コミュニケーションを生み出す力があると思います。

**塩谷** 小学校においても友達の影響は大き

いですね。例えば、『かいけつゾロリ』シリーズ（原ゆたか作）を読んでいる子どもたちが、突然、あさのあつこさんや森絵都さんの作品を読むことはありません。本をパッと開いたときに字が小さいと抵抗を感じるわけです。五年生の終わりの話ですが、ある子が『カラフル』を紹介したのです。「これは表紙が殺風景で、『カラフル』という題名を読んだだけでは、何の意味かわからないけれども、とにかく騙されたと思って読んでほしい。」と。そうしたらクラスの半分以上の子が読んでしまったのです。そういう状況を作ってしまったら友達力というのは非常に大きいですね。

**甲斐** 友達がどんな本を読んでいるのかを知ると、その友達の意外な一面が見えて、「あいつがあの本を読んでいるのか、僕も読んでみよう。」とかなるようですね。

**塩谷** 友達の影響の大きさに驚いた例がもう一つあるのです。あるとき六年生の子が、「東野圭吾さんの『手紙』を読んだとき、僕は初めて本を読んで泣いた。」と言うのです。すごくいたづらな、そういうことには縁のなさそうな子が、本を読んでこんなに心が動かされたということを語るのです。そのことが

感じます。中学生って、「不機嫌」が習性になりつつある一方で、一生懸命生きることが好きなんです。がんばった自分に感動しますし。だから、友達が、「この本を読んで泣いた。」とか言うと、グッときますよね。

**上谷** 人を介してというのが、すごく本を読む意欲につながっているんですね。

「読み聞かせ」や「再読」、「多様な読み」の価値を認識する

**上谷** 本を紹介する方法のひとつとして、「読み聞かせ」は、ぜひ薦めたいですね。中身に直接触れられることが、「読み聞かせ」のよい点だと思います。最初はなかなか読みづらいものでも、先生が冒頭だけ読んであげれば、興味のある生徒はもっと続きを読む、といったようになります。

**甲斐** わたしは教員仲間から教えてもらった「朗読劇場」という方法で「読み聞かせ」をやっています。教室の電気を消したり、カーテンを閉めて暗くしたり、わざわざドアから入り直したり。さながらわたしは女優気分です。生徒が、「先生、最後に感想を聞くの。」と聞いてくるので、「舞台の上から観客に向かって、『感想を言いなさい』なんて言うわけないでしょう。」と答えたら、「だったらどんどんやって。」と。つい最近も、中三の生徒たちに、『あらしのよるに』（きむらゆういち文）を読みました。以前、小学校の教科書に掲載されていた作品ですが、読むと大喜びです。年齢に関係なく、聞き浸る時間は好きなのだろうなと感じました。

**塩谷** 小学校一年生の子どもたちは、四、五月あたりはすごく緊張していますが、幼稚園や保育園で馴染んでいた本を読んでもあげると、



上谷 順三郎（かみたにじゅんさぶろう）  
鹿児島県生まれ。鹿児島大学准教授。  
鹿児島県立小・中学校国語教科書編集委員。  
著書に、『読者論で国語の授業を見直す』『明治図書、「読者論」に立つ読みの指導』『国語教育研究の現代的視点』ともに共著、東洋館出版社 などがある。

きっかけで、クラスの中で東野圭吾さんがやりました。

**上谷** 中学生ごろから一気に、「感動する本」を好むようになりますね。中学生は日常の中で、心のひだとか、幅とか、深さといったものを考えるようになるのだと思います。六年生の夏休みあたりを境に、そういう自己意識を構築するような本を求め始めるのです。

**甲斐** わたしもそのひだをすごくリアルに

表情がガラリと変わって、みんなにここへ喜んでいます。中学生も同じだろうと思います。

**上谷** 読書というのは、以前読んだものを読み返してみると、昔の自分と今の自分との



甲斐 利恵子（かいらいえこ）  
福岡県生まれ。東京都台東区立御徒町台東中学校教諭。  
光村図書中学校国語教科書編集委員。  
著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）『聞き手話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）『中学教師もつらい』（共著・大月書店）などがある。

よい作品に出会ったとき、人は気持ちが開かれて、この喜びを分かち合いたいと思う。「読書」そのものに、コミュニケーションを生み出す力があるのです。



教科のカリキュラムに合わせた「別置コーナー」(塩谷先生作成)

違いを確かめられる。しかも再読というのは、自分のお気に入りの本が見つかったという意味でも重要だと思います。

先ほどの本の紹介にしても、「この人はこの本をこんなふうに取り上げているけれども、自分が読んだら違う発見があるかもしれない。」と、読みの多様性に気づきつけかけになる。そういった読みが、読書の質を高めていきます。

「再読」や「多様な読み」など、学校でもできそうなことはどんどん取り入れて、読書のいろいろな面を見せてあげることが、これからの指導のあり方かと思っています。

### 教科書教材からの読書への広がり

**塩谷** 先日、五年生の読書教材『千年の釘にいどむ』(光村図書「国語」五上)という鍛冶職人 白鷹幸伯さんの釘作りの話を扱った際、地域でそのような仕事をしている方に学校に来ていただいたのです。体験を直接語ってくださる方がいると、「白鷹さんのような人がいるんだ。」という実感が湧き、ほかの人の生き方、伝記などにも興味が出てきますね。

**甲斐** 教科書教材から読書へとつなげる観

## 先生方の工夫次第で、教科を限定しない幅広い読書力を身につけられる環境が作れます。

と思って、日常の中で図書館にちよつと寄ってみようと思うようになります。新聞などを切り抜いて、ラミネーターにかけて置いておくのも有効な方法です。

先生方の工夫次第で、教科を限定しない幅広い読書力を身につけられる環境が作れると思います。

**上谷** 国語科以外の先生と、ジャンルや内容との関連を考えて連携しながら教科をつな

点はいろいろありますね。『故郷』(光村図書「国語」3) だったら、同じ作者の『藤野先生』とか『小さな出来事』とか、そういうわかりやすいつながり方もありますし、『言葉を探検する』(光村図書「国語」1) では『擬音語・擬態語』使い分け帳』(山口仲美・佐藤有紀 著) につなげていたりできます。古典だったら、田辺聖子さんの古典に関する作品とか、漫画の『あさきゆめみし』(大和和紀 著) だとか、橋本治さんの『桃尻語訳枕草子』だとか。古典は、現代語訳の比べ読みも楽しいと思います。

**上谷** 必ずしも正統的なものでなくても、『盆土産』(光村図書「国語」2) を柔軟にとらえて、エビフライの食べ方などにつなげてもおもしろい。読書というのは、先生方の意識次第でかなりいろいろな切り口が見つかるかと思っています。

### 子どもに読ませたい本は「別置コーナー」に置いてみる

**塩谷** そういう切り口をたくさん考えて、学校図書館の中に「別置コーナー」を作るといいと思います。教科のカリキュラムに合わせたものでもいいですし、季節に合わせてもい

いではないかと、本当の読書力はつきませんね。その意味でも、図書館はもつと「別置コーナー」だらけにしてもいいんじゃないですか。中学校も図書館を作り変えるくらいにしていくと、生徒たちが出会う本が変わってくるでしょうね。

**塩谷** 別置だらけだと、必要な本が探せなくなりますね(笑)。

別置には、ほかにも効果があります。子どもがなかなか手に取らない本を、人気のある「別置コーナー」の中に忍ばせておくのです。いっしょに並んでいると、いつの間にか目に入ってしまうでしょう。

### 甲斐 サプリミナル効果?(笑)

**塩谷** そんな感じですね。こういう本も読んでほしいという、こちら側の願いを、「別置コーナー」に込めることができるのです。

いですね。それが終わったらまた元の棚に戻すのですが、「別置コーナー」は子どもたちに非常に人気です。

**甲斐** 中学校だと、いろいろな教科の先生に、これから学習する単元に関係する本を抜き出してもらって、「別置コーナー」を作るのもいいですね。

**塩谷** タイムリーなものが、ほしいときすぐ手に取れる工夫が大事ですね。そうすると子どもたちは、いつも何かあるのではない



塩谷 京子(しおやきょうこ)  
静岡県生まれ。静岡市立森下小学校図書教諭。  
子どもに情報活用する力を身につけるための授業の開発を進める。著書に「しるべる力をそだてる授業!」(共著・ポプラ社)、『学校図書館で育む情報リテラシーすぐ実践できる小学校の情報活用スキル』(編・共著・全国学校図書館協議会)などがある。

### 「読書力」と「国語力」は密着している

**塩谷** 「読書力」と「調べる力」を分けて考えることが多いのですが、調べることは、基本的に読書力がないとできませんし、調べたことがまた読書力にも返っていくと思います。この両者のバランスが大切ですね。

最近、インターネットを使うことも多くなりましたが、インターネットであっても、結局、そこに書いてあるのは言葉です。その言葉をどう理解して、人にどんな言葉で伝えるのか。その力は、小さいころに出会った絵本から感じとった経験などが大きく影響しているように思います。それが最終的には、国語力というところに戻ってくるという気がします。

**甲斐** 読書のベースがあつてこそ、知的好奇心も湧いてくるものですね。

**上谷** 文化審議会の答申「これからの時代に求められる国語力について」にもあるように、読書は、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにも関わっていて、読書と国語力はかなり密着しているものと考えることができると思います。

「自ら本に手を伸ばす子ども」を育てるため

テーマ別に本を並べています。  
表紙も見せて、おすすめ本をアピール。  
「感動したいあなたへ」「何かに熱中したい君へ」  
「この映画見た?」「おもしろ雑学」など、生徒  
が興味をもちそうなテーマです。

本の後ろには、牛乳パックを  
入れるのがポイント。  
本はできるだけ前面に出すと、  
アピールする力も強くなります。



**学校図書館レポート**

**地域の力を生かした学校図書館づくり**  
—東京都目黒区立第八中学校の取り組み—

目黒区立第八中学校では、十八年度より、「学校図書館ボランティアリーダー」(※参照)とともに、学校図書館の整備を進めています。また、十九年度からは、保護者ボランティア(29名)の協力も得て、家庭での読書推進も視野に入れながら取り組んでいます。



学校図書館ボランティアリーダーとともに作った「別置コーナー」

**上谷** 先生方は、嫌われようが生徒の反応が悪かろうが、生徒にどんな本を薦めてほしいです。中学生にとっての読書とは、自己意識を構築することなのです。やはり教師は、そこに強く関わっていきける存在でありたい。

**塩谷** 教室の先生の机の上に、いつも本が

には、ある程度意図的に指導していく必要があるのです。これからの時代に求められる国語力は、読書抜きでは考えられないわけです。わたしは、「PISA」の調査結果が悪かったのも幸いだと思います。このようなことを考えるきっかけとなっているわけですから。

**甲斐** 現場では時間が足りなくて、「読書といってもなかなか」と思うかもしれません。指導者が関われる部分を確かめて、まずはできることから取り組んでいきたいですね。

何冊か積んであるといいですね。先生の好きな本や子どもが持ってきた本、または、子どもには関係のない本だとしても、いつも本が置いてあるという環境を作ってあげること、子どもの意識も変わるかもしれません。

**甲斐** 机に積んである本から、コミュニケーションが生まれるかもしれない。教師自身が本好きであれば、子どもには必ず伝わる気がします。読む喜びを、子どもと分かち合っていきたいですね。

※1「学校読書調査」  
毎日新聞社が、社団法人全国学校図書館協議会の協力を得て、毎年実施している。小(四年生以上)・中・高校生を対象としており、子どもたちの読書傾向を調べることが目的とする。座談会収録時点では、二〇〇六年の調査結果が公表されていた。

※2「読書へのアニメーション」  
スペインのM・M・サルト女史が提唱した読書教育メソッド。「どんな子どもでも潜在的に『読む力』を持っている」との考えに立ち、子どもの中から自然に「読む力」を引き出すことを目的としている。「Strategia」(作戦、戦略)と呼ばれる創造的な遊びが75通り開発されている。



※「学校図書館ボランティアリーダー」……目黒区教育委員会が、司書資格を有する(もしくはそれに準じる)人を学校に派遣。保護者ボランティアらを指導しながら、学校図書館向上につとめる。



図書館以外の場所にも、本棚を設置。  
校内のどこでも本を手にとれる環境です。



保護者ボランティアは、放課後のカウンター業務(週1回)やポップの作成、書棚づくりなどにも関わります。

本一冊を丸ごと授業で扱う（二年）

新しい指導を考える会

本校の「読書」に関する取り組み

本校では夏期と冬期の長期休業中に、学年全員が一冊の同じ本を読み、長期休業後にその本を使った授業を展開している。宿題として課すだけであると生徒たちの負担も大きいと考えられることから、長期休業前二週間を「朝読書」の時間としてまとめ取りしている。

これまで星新一訳の『竹取物語』（角川書店）、辻仁成の『そこに僕はいた』（新潮社）、池澤夏樹の『南の島のティオ』（文藝春秋）を扱った。

本稿では、教科書教材にある『竹取物語』と関連させて取り組んだ二つの実践を紹介したい。

星新一 訳『竹取物語』の魅力

『竹取物語』は古典の入門単元としての教科書にも掲載されている。音読・暗唱・歴史的仮名遣いの学習は、帯単元として継続的に取り組んでいる「古典暗唱」の時間に回し、本単元では、日本最古の物語であり、だれもが読んだことのある「かぐや姫」の話を、現代語訳で全編通して読むという学習を行った。テキストには、星新一訳『竹取物語』（角川書店）を使用した。

この本を学習材としたのは、原文に忠実で文章が平易であるのはもちろん、SF作家としての訳者自身の解釈や解説、補足

|   |               |   |                                                                                                                               |   |                                                           |   |                                                                                        |   |                    |   |      |
|---|---------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------|---|------|
| 五 | 右大臣の阿都の御主人    | 四 | 庫持の皇子                                                                                                                         | 三 | 右造の皇子                                                     | 二 | 右造の皇子・庫持の皇子<br>右大臣の阿都の御主人<br>大納言の六仲の御行<br>中納言の右上の藤室足                                   | 一 | ミヤニコ・おはあめん<br>かくぐせ | 章 | 登場人物 |
| 五 | 「おえらし、あけなほ結   | 四 | 「たまふに、手思はな<br>かた目に会ふこの意味                                                                                                      | 三 | 鉦を拵つ、石の鉦た<br>からうやになつて投げ<br>捨たれば割れてはけ<br>らたふら、恥をかくに<br>た意味 | 二 | 海山の道に心をつくしはて<br>なるの針の邊迄来よ<br>ふく雲の光をにぞやまじ<br>小倉山にてなにもこのけん<br>白山にあへは光の来すやう<br>鉦を拵ててたのまかな | 一 | ぶはし、呼ぶの変化          | 終 | 散歌   |
| 五 | 「ぬい、おききおききおきき | 四 | いたつに身ははつと玉の珠を<br>手打つたに、ゆゑにこま<br>くさ竹のまの竹、野のこま<br>くさはわづらひんばおひし<br>わがなも、おひんばおひし<br>まこくぐの敷もこねおひし<br>まこくぐと聞て思はればあはれ<br>御れるまの珠にぞあはる | 三 | 山寺                                                        | 二 | 山寺                                                                                     | 一 | 山寺                 | 場 | 場所   |

▲表の作成例

「表の作成例」としては、五人の貴公子たちの話を整理する  
というものを留意した。「貴公子名・宝物・入手方法・結果・  
生まれた言葉・詠まれた和歌」といった項目を立てて、それ  
に関する必要な情報を素早く読み取って整理したのである。学習  
者には、自分の関心に応じて読み取る情報の項目を変えたり、  
考えたりしてよいと伝えた。

**実践2** 交流を通して古典に親しむ（四時間扱い）

本單元では、『竹取物語』が読み継がれてきた理由を読み解き、それを交流することを通じて古典に親しむ態度を育成することに主眼をおいた。

実践1で整理しながら考えたことについて、要点を示しながら

でも各章末にある訳者の「一息」のコーナーは、さまざまな課題を学習者に投げかけてくれる。さらに挿絵が多く、しかも一ページ大であるので、当時の生活様式を知るうえでの手がかりを与えてくれるということも、この学習材の大きな特徴である。

実践1 情報を整理して『竹取物語』を読む（三時間扱い）

本單元では、『竹取物語』を古典の学習材として捉えるのではなく、情報の活用能力の育成を主眼とした。あとに計画していた「交流を通して古典に親しむ」(実践2)との流れを意識し、『竹取物語』に書かれている内容を、一覧できるように表に整理したのである。授業に際して、指導者が用意した「学習の手びき」は、以下の通りである。

○最終的には、『竹取物語』という古典が、千年以上も日本人に読み継がれてきた理由(＝魅力・現代との共通点)について、考えることを目指す。

○「自分の読み」をもつために、『竹取物語』の本に描かれていた内容を整理する。

○B4用紙一枚に、整理した内容が「一覧できるように」まとめる。

らプレゼンテーションを行った。以下は、意見の交換を通じて学習者たちが獲得した気づきである。



▼ プレゼンテーションの様子

○時間に対する意識が現代とは違うと思う。『竹取物語』の人々は恋でも何でもゆつたりとかまえている。

○子どもを大切に育てる心や、その子どもと別れるときの悲しさなどは現代と共通している。

○これは平安時代のSF！ 昔の人でもつかい夢をもっていた。

○昔の人にも「ダジャレ」が好きだった。

おわりに

活字離れが進んでいる今、中学生に一冊の本を読み通した充足感を味わわせたいと考え、本一冊を丸ごと授業で扱う実践を重ねている。今回の実践では、古典を楽しむことを最終の目的としつつ、情報の活用能力を身につけることも意識して授業を展開していった。

教科書教材から読書に発展させる試みはこれまでも実践してきているが、これと並行して、本一冊を丸ごと使った実践を重ねていきたいと考えている。

## 読書っていいかも！（一〜三年）

―読書指導を通して学習実感を与える―

### 読書の価値を実感させる

中学生への読書指導は、読書の価値をいかに実感させるにかかっている。そのためには、計画的な読書指導を通して、本のよさとともに「このことを学んだ」という学習実感を与えること、つまり、本の魅力に力を借りて、「指導すべき内容（身につけるべき言葉の力）」を指導することが大切である。

### 実践1 継続的な指導で学習の下地をつくる

- ① 学習実感を得ながらすすめる『読書ノート』（一〜三年）  
「読書習慣をつける」と言うのはたやすいが、学習者・指導者ともに、相応の努力が必要となる。『読書ノート』は、細かな手びきのもと、後述の内容を三年間に渡って日々書き記していく、月末に、さまざまな表現手段（ポップで紹介）「マイベスト本スピーチ」などを使って、ノートに書きためた情報や自分の考えを友だちと交流する。これには、次のようなねらいがある。
- ② 自らの読書傾向を自覚するとともに、友だちの読書傾向や情報収集の仕方に学び、次の読書へつなげる。
- ③ 目的に応じて本を選び、その目的に沿った読み方を選択し、自ら読み進めていく力をつける。

（4）指導者が各学習者の読書傾向を捉え、効果的なアドバイスをを行うことで読書の幅を広げる。

国語科の学習と計画的にリンクさせながら本実践を継続することで、言葉の力をつけながら、本を見る目が育っていく。読書の質の向上という点においても有効な取り組みである。

### 実践2 自らの力で読書生活を切り開いていく

―自分たちの手で学校図書館をつくる（三年）―

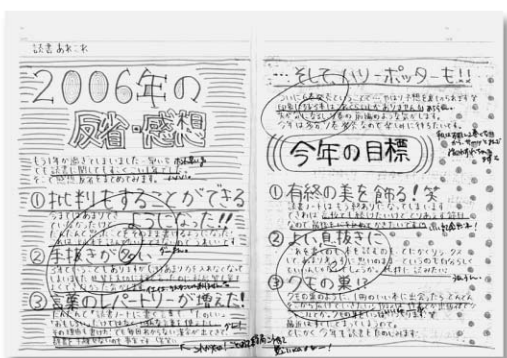
読書生活全体を視野に入れて学習活動を考えていくと、現実の場面に即した必然性のある学習が展開できる。ここでは、学習者の読書生活の支えとなるべき学校図書館のさまざまな課題を抱える現状を学習材料にし、使い勝手のいい、親しみのある学校図書館にするための工夫を考え、提案し、改造するという流れを仕組むことで、自分の考えをまとめ、表現していく能力の育成を図った。学習の流れは以下の通りである。

- ① 公共図書館を訪問、利用者のための工夫を探し、図書館レポートを作成する。（一年P136「レポートにまとめる」を活用して作成）
- ② ①を通して考えた改造のアイデアを交流し、もう一度自分たちの学校図書館を見直す。（獲得した知識を交流し、どのアイデアを生かすかを話し合いで決定）
- ③ 企画書一枚を作り、プレゼンテーションを行う。（「企画書の書き方」を学習し、二年P98「プレゼンテーション」を活用して発表）
- ④ 各クラスの代表の企画書をもとに、実際に学校図書館の改造に取り組む。（学校長に企画を提案↓話し合い↓実行）

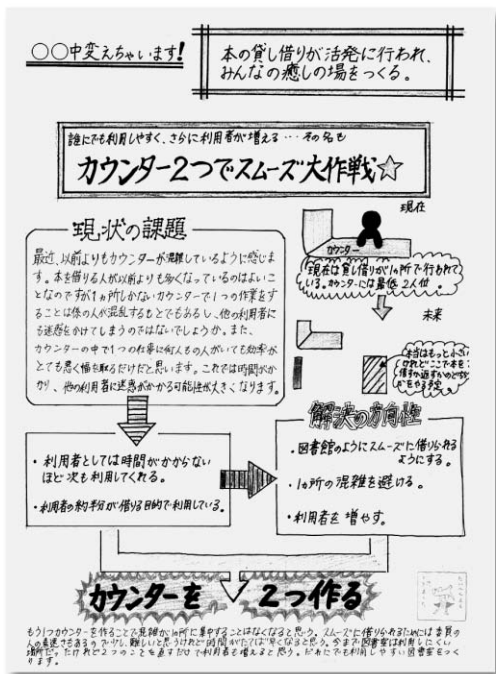
新しい指導を考える会

- ③ 自分が得た情報や、自らの考えを効果的に表すためのさまざまな表現方法を学習し、自分の表現に役立てる。（例えば、「ポップで紹介」であれば、本の基本情報の見方（奥付の読み方）に加えて、①キャッチコピーの作り方とその効果②引用・要約について③人を引きつける紹介の仕方を学習する。）

- ① 読書ノート 記入のポイント  
まだ読んでいないが読みたい本
- ② 読んだ本  
実際に読んだ本
- ③ 読書あれこれ  
読書を話題とした新聞や番組の感想、友だちや家族との本に関する話題、愛読書や蔵書紹介、本屋さん探検記など、読書に関することなら可
- ④ 読書生活を振り返る  
友だちとの読書交流を行う。交流方法を変えながら、指導すべき事項を指導
- ⑤ 手びき、プリントなど



▲批判的な読みの必要性、語彙の増量を自覚した『読書ノート』例



▲学習者が作成した企画書例

### 目ざす姿

わたしにとつての読書ノートは、勉強の一部ではなく、生活の一部でした。わたしはあまり勉強が得意なほうではないけど、読書ノートだけはとつてもはかどりました。一年生のとき、こんなことをやらされるのかと思っていましたが、やり出すと止まらないんです。（中略）今まではあまり敏感ではなかった本のこと。この三年間でわたしは大好きになりました。読むこと、書くこと、考えること。読書ノートはたくさん読んだことを教えてくれたし、学ぶことができました。

▲『読書ノート』からの抜粋

読書生活を教材化する視点は、身につけるべき言葉の力を明確に位置づけながら、さまざまな言語活動の設定を可能にする。読書指導は、自分の力の伸長に手応えを感じつつ読書の価値を実感できるものでありたい。そして、読書という行為が「生活の一部」になれば、こんなに心強いことはない。

# 国語科は、 年中生徒と話ができる教科です

東京都台東区立御徒町台東中学校教諭

甲斐 利恵子



最近、国語教師として不安になることが多くなりました。生徒たちのつまらなそうな顔を見るとつらくなります。国語の教師になってよかったなと思うのはどんなときか、どうしたら生徒たちは楽しい顔になるのか、教えてください。

いきなり大きな問題に激突しましたね。生徒たちのつまらなそうな顔を見るのは本当につらいですね。わたしにもそんなときがありました。

この状況を一気に打破するようなことにはならないのですが、あるささやかな一場面を思い出したのでお話しします。

## 国語科だからできること

数年前の職員室でのことです。わたしは生徒の書いた作文に夢中になっていたようです。文章に反応してちよつとつぶやいていたのかもしれませんが、すると、すぐ近くにいた数学の先生が、わたしに向かって言いました。

「いいよなあ、甲斐さんは。国語の教師って、年がら年中生徒と話してるようなもんでしょ。こっちは教えなきゃいけないことが多すぎて生徒の気持ちなんて全然つかめないし、わかったかわからないが見えるから厳しいんだよねえ。」

じゃあ何ですか。国語は教えなきゃならないことなんてちつともなくて、生徒がわかったかどうかなんて関係なくて、数学と違って甘い世界なんですか。と、反論し

印刷したり。

もちろん、その準備をせずに楽しいひと時がやってくるはずはありません。「書きたい」「話したい」「聞きたい」「読みたい」という学習への意欲を創り出すという発想をもたなければなりません。そのための果敢な挑戦をしてみることから始めてはどうでしょうか。毎回同じような授業をしていけば、生徒たちは同じような表情を見せるでしょう。つまらなそうな表情を予想して気持ちが沈むより、こんなこと、あんなことを考えていた方が教師の表情も明るくなるはずです。自分が楽しくないことを楽しめとは言えないですね。

じゃあ、自分が楽しければいいんですね、なんて言うてはいけません。どんな力を育てようとしているのか目標を明確にしつつ、その目標にこの教材がふさわしいかどうかを吟味することや、そのための「手びき」を具体的に考えることも必要です。

そう考えると、ホントにやり甲斐のある仕事ですね。生徒たちは「自分を伸ばしてくる教師」が好きなのであって、「おもしろい」とか「優しい」というだけでは、ついて来ないものです。

生徒たちが「書きたい」「話したい」「聞



生徒たちは「自分を伸ばしてくる教師」を求めているのですね。生徒自らが「○○したい」と思うように、まずは教師自身が明るい表情で楽しんでやりましょうよ。

きたい」「読みたい」と思うにはどうしたらいいかを考えて、授業を組み立ててみてください。大変だけどきっと楽しい仕事になるはずです。

## まずは、教師自身の果敢な挑戦を

では、「年中生徒と話しているような」状態になるためには、どのようなことが必要になってくるのでしょうか。先ほどの作文の例に限っていえば、生徒が本気で書いてくれているということが挙げられます。この学習では生徒たちが本気になるために、まず、書きたくなるための準備をしました。

先輩たちの書いた意見文を紹介して、先輩の言いたいことを一文で要約してみようという学習をしました。また、タイトル例をたくさん示したり、書き出しの例を

でもよかったのですが、そこは穏やかに応えました。

「ほんとですよねえ。国語科っていい教科ですよねえ。」

これはかなり本気で発言しました。生徒たちの書いた文章を読んで、こんなこと考えたのか、これはないでしょ、こういう意見言うなんて君もただ者ではないなんて。こんな楽しいひと時を過ごせるなんて、やはり国語科ならではなことではないでしょうか。

毎日の授業や生徒との接し方に悩む若い先生たち、こんな小さなきっかけから生徒が変わります。

## 問われる教師力

### 1 国語教師の仕事

国語教師は、自分の受けもつ子どもたち一人ひとりに、生涯にわたって必要な言葉の力をつけること、つまり生きる力として、言葉で理解し表現する力と、言葉を学んでいこうとする態度を育てることを目ざしている。

国語教室では、子どもが生き生きと学習していなければならない。そして、学習を通して言葉の力が育っていることが必要だ。「子どもが生き生きと学習している」とは、子どもがやろうとすること、求められていることがわかって活動していること、生育歴、興味・関心の対象やその度合い、ものごとに取り組む姿勢や取り組みでやった成果、ものの見方・考え方など異なる子どもたちがそれぞれに応じて学習しているということ、学習しつつ思考し、想像し、創造し、自己を啓いているということ。そういう行為で満ちている場が教室である。そこには一人ひとりの学びがあるとともに、相互に学び合って個性を磨き向上しつつある状況がある。その状況は、常に将来に向かって動いており、その連続する時間の中に身を置いて、子どもたちと触れ合い、格闘し、さまざまな人間関係を結びつつ、それぞれに学びを形成し（ときには支援し、ときには突き放しながらも）、人間形成を図る、そういう教師像を目ざす。

### 2 学習が成り立つ、つまり授業を作る

学習には目標があつて、それに向かって活動し、指導

者はその目標を設定する。学習目標は、学習者の側から出る場合もあり、学習指導から必然的に生まれることもある。また、指導者の指導理念や指導しようとする事柄・体系から選り出されることもある。どのような経緯であろうと、学習目標が決まるということは、指導する内容も決まったということだ。

はじめ漠としていた学習目標が実際の学習目標になるというのはどういうことか。まず、学習者の実態が把握され、そこから指導すべきことが取り出され、絞られて明確になっていく。それが学校の立てた（企てた）カリキュラムのどこに位置づくか吟味され、学習材・学習方法との関連で、学習のひとまとまりができてくる。こういう操作を経て学習内容が決まり、学習目標も決まって、具体的な言語活動は始まるのだ。この学習のひとまとまりを普通「単元」と言っている。単元は教師が作るものである。学習者を見て、「学習者にあつた学習Ⅱ授業」を展開する。教科書があつて教科書の順番に教えるというのは初心者のやること。本来、教師は、授業を作る、カリキュラムを立てるべきものである。

### 3 問われる教師力

単元を考えると授業設計のことである。学習者の実態をつかんで、この学習者にどのような力をつけ育てるのかを考えていくときに、学習材と学習の方法Ⅱ学習活動（言語活動）・学習形態を、時間の流れに沿って考え

合わせ、設計するのである。一つのまとまった形にするのである。このとき発揮されるのが教師の力量である。

わたしはこれを「教師力」と言いたい。ここでは、単元作りに必要な教師力を列挙しておく。

#### （1）学習者ウォッチング力

学習者ウォッチングはいろいろな方法がある。教室での言語行動、表情、作文、ポートフォリオ、指導者の働きかけに対する反応など、どの力が不足しているか、どんな力をつけなければならないか、興味・関心、学習方・発想の傾向などについて一人ひとり捉える。

#### （2）指導内容に関する知識

どんな力をつけなければならないか、何が不足かを知らするために、言語に関する自分なりの能力表をもつこと（自家薬籠中のものとして）。学習指導要領を見ること。

#### （3）学習材化力

学習材になる（する）候補は広く存在する。地域の言語文化、伝統芸能、言語文化の型、出版される本、新聞、テレビ、近隣の人たちの話など、高くアンテナを掲げて取材し学習材に組み込みたい。第一級の学習材に教師の話と文章がある。学習者に示すモデルでもあるが、教師の短い話は「聞く」学習の絶好の教材である。学習者の作品や卒業生・先輩・親や祖父母の言葉なども取り入れたい。

学習材は単元が始まると順次、変わっていく。学習者や指導者の言語活動が学習材となっていくからである。

#### （4）学習方法Ⅱ学習活動（言語活動）・学習形態のノウハウについての知識

・どんな言語活動（聞く・話す・読む・書く・見る・話し合う・調べる・創る・演じるなど）をさせるのか。<sup>※</sup>

・ひとり学びの状況作りか、学び合いの状況作りか、集団（二斉）の学習状況作りか。

・対話、話し合い、討議、スピーチ、文章のジャンル、表現形態のいろいろ。

・練習（学習）か、本番（実の場）か。

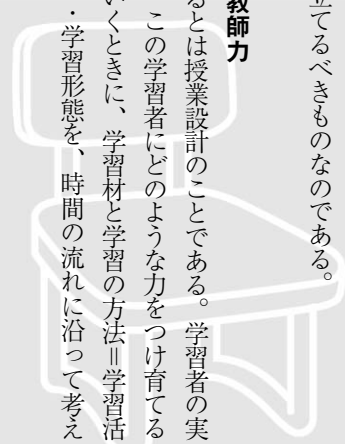
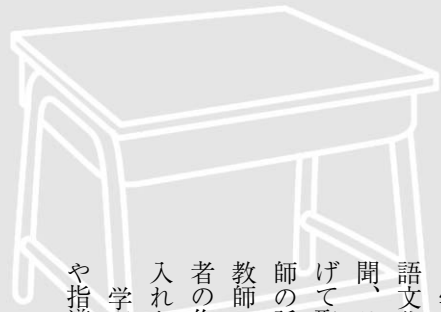
#### （5）学習指導のためのノウハウ（道具など）

- ・モデル（サンプル）提示を考える。
- ・学習の手びきを用意する。
- ・ノート、情報カード、手づくりのワークシートなど。
- ・大道具（机や椅子などの配置、黒板）と小物類（ベル、ストップウォッチ、掲示板、パネル、マイク、各種の紙、筆記用具）
- ・ICT関係の用具など。

（元岐阜大学教授）

#### ※「見る」

ヴィジュアルなものと文字をつなぐものが「見る」である。写真のデジタル化、パソコン入力・出力が自在であり、ICT教育にも欠かせないものとなっている。メディアを介して「聞く」「読む」「書く」「話す」が要求される時代である。





# 『走れメロス』 定番授業の先へ

前南アルプス市立甲西中学校校長 松野 洋人 まつの ひろと

第二学年の三学期(後期)に、『走れメロス』(太宰治)という教材が配置されています。長きにわたって採用されており、先行研究も数多く目にするのですが、この稿では、これまであまり授業で取り上げられてこなかった視点から、この教材を見つめ直してみたいと思います。

## 1 これまでの授業の傾向

―登場人物の心理を読む―

これまで『走れメロス』の授業で最も多く行われてきたのは、故郷からシラクスの王城へ戻る途中のいくつかの困難と、その困難な状況におけるメロスの心理の読み取りを中心とするものでした。このような授業が問題だ、と言っているわけではありません。これらの困難を克服し、約束の刻限ぎりぎりに王城に到着したからこそ、わたしたち読み手は感動させられるわけですから。

## 2 学力意識をもった意図的な取り組み

―「自分の考えをもつ」ことに着目して―

ただ、人物の心理の変化を読むことは、小学校低学年から中学校に至るまで、実は何回も何回も行われてきているのです。いえ、「物語や小説を読む」ということは、登場人物の心理を読むことである。」という信仰にも似た思い込みが、長い間国語教育の世界に蔓延していたような気がします。ですから、中学校の二年生なら、少し読みの視点を変えてみてもいいのではないかと思うのです。

教科書では『走れメロス』の学習目標は、「二項目記されています。・登場人物の考え方や生き方について、自分の考えをもつ。・描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わう。」

また、「学習の窓」欄(P175)にも、「人物像の変化に着目する」と

いう表題で「人物像の変化」に着目して読み深めることによって、この作品を「より豊かに味わうことができる」とも記されています。

ここの学習キーワードは、「自分の考えをもつ」と「人物像」です。「人物像」の中身については、「考え方や生き方」であると考えればよいでしょう。主な登場人物は、主人公のメロス、その友人のセリヌンティウス、王のディオニスの三人ですから、この三人の「考え方や生き方」をしっかり読み取り、それらに対して「自分の考えをもつ」という点に学習の中心を置く、という設定になっています。

この「自分の考えをもつ」という学習は、今話題の、いわゆる「PISA型読解力」でも求められていますから、これからは、このような学習をより重視していくことになると思います。これは、少し新しい方向性です。これまで以上に学力意識をもって、意図的に取り組んでみてはどうでしょう。

## 3 さまざまな視点からの学習を提示

―リズム・仕掛け・呼称―

(1) 感動生成要因としての文体に着目する

この教材を読んで、わたしたち読み手が感動させられる要因の一つは、間違いなく、命を賭けた友との約束を守るため、幾多の困難を克服して定刻までに王城に辿り着こうとするメロスの意志であり行為です。

しかし、それだけではありません。この教材の文章は、音楽的・律動的なリズムをもつて書かれているため、わたしたちはこんなにも感動することができるのです。ただ文の長短を生徒に指摘させるだけでなく、音読によってその事実を体感させてほしいと思います。

(2) 仕掛けについて考える

第二は、山賊の登場についてです。王の差し金によるものかどうかについては、何も持つていないはずのないメロスへの、「持ち物全部を置いていけ。」「その、命が欲しいのだ。」などの山賊らしからぬ言葉から、王の命令で登場したと考えるのが普通でしょう。では、王は山賊たちにメロスを殺せようとしたのでしょうか。確かに山賊は「命が欲しい」と言っていますが、王はメロスが戻らないことを願ったのでしょうか、あるいは、少し遅れて戻ってくることを期待したのでしょうか。王のメロスに対する心理を考える切り口としても、興行きのある課題だと思います。

第二は、フィロストラトスの登場についてです。さすがに、メロスを遅参させるため王から差し向けられた、という解釈に立った授業は目にしなくなりましたが、では、彼をそこに配置した目的は何でしょうか。彼とメロスとの会話を吟味し、この時点でのメロスの心理を考えてみることで、課題の出口が見えてくると思います。

(3) 登場人物の呼称に着目する

メロスについて、教材の中では、ほとんど「メロス」という呼称で出てきます。例外的に「彼」(P173・L2)「勇者」(P174・L11)という呼称が使われていますが、特に「勇者」には評価意識が含まれています。友との約束を守り、「信実」を身をもつて示すことで、暴君ディオニスの人間性をも変えてしまった、そのことに対する評価です。

王の呼称については、「王様」「国王」「王」「暴君」と使い分けられています。その背後にある心理・評価について考えてみたいと思います。

『走れメロス』には、まだまだ多くの切り口があります。指導時数や指導目標を踏まえ、多様な実践が展開されることを期待しています。

連載 新しい書写実践の試み ⑤

伝統文化に親しもう

―用具・用材への関心を広げ、  
配列・配置に気をつけて書く―

千葉大学准教授 樋口 咲子

1 実践の趣旨

「国語」と「書写」の関連を図るために、「国語」で学習した和歌や俳句、詩や文学作品の一節などを、さまざまな用具・用材を用いて書き、掲示するという取り組みがよく行われている。本稿では、二つの関連にさらに広がりをもたせるため、「貝合わせ」を取り入れた授業を紹介する。貝合わせという伝統的な遊びを通して名言・名句に親しみ、古典に対する理解を深めるとともに、書写のさまざまな用具・用材に関心を広げ、配列・配置を理解して書くことを目指す。

2 「貝合わせ」の教材化

(1) 貝合わせについて

平安時代に貴族の間で行われた「物合わせ」の一つである。元

来、珍しい貝を左右のグループに分かれて出し合い、その美しさを競った遊びのことを言ったが、その後、別の遊びである「貝覆い」との区別がなくなり、「貝覆い」のことも指すようになった。「貝覆い」は、ハマグリ貝の殻を切り離したとき、別の貝殻とは合わないという特性を利用した遊びである。貝殻を地貝と出貝とに分け、地貝すべてを伏せて並べて、出貝を一個ずつ出し、対になる地貝を多く選んだ人を勝ちとする。貝の裏には、対になるような絵や和歌の上の句・下の句などを分けて書き込み、合わせやすいよう工夫した。



(2) 教材化

二枚で一組になるという特性を生かし、俳句・和歌や四字熟語など名言・名句を二枚の貝に分けて書き、貝合わせを行う。これによって、古典の名言・名句に親しむことができ、さらに、貝に文字を書くことにより、書写の用具・用材に対する考えを広げたり、配列・配置の学習効果を上げることも期待できる。

(3) 指導計画

- 第一時 貝合わせの説明をする。貝に金色を塗っておく。
- 第二時 貝に和紙を貼る。書く文字と配置を考える。
- 第三時 貝に文字を書く。貝合わせをして楽しむ。

(4) 制作方法

【用意するもの】

ハマグリ：大きいものを用意する。スーパーマーケットや居酒屋などをお願いして、取っておいてもらうとよい。  
和紙：千代紙のほか、和菓子などのきれいな包装紙を活用すると、リサイクルの意識が高まってよい。  
その他：毛筆用具、木工用ボンド、金色のラッカー・アクリル絵の具、筆（ボンド用・絵の具用）、小皿（ボンド用・絵の具用）など

【作り方】

- ① 貝を一枚ずつ切り離し（ベアがわかるようにしておく）、外側に金色のラッカーを吹き付ける。重ね塗るとききれいだがある。
- ② 貝の内側の結合部分や和紙を貼りにくい奥の部分には金色のアクリル絵の具を塗っておく。へ文化祭などで参観者に体験してもらう場合は、ここまで準備しておく。
- ③ 貝の内側に貼り付ける和紙を適当に破る。平安時代に美しい仮名が書かれた料紙には、数種の料紙を破いて継ぐ「破り継ぎ」という技法がある。そうした伝統も知らせるとよい。
- ④ 木工用ボンドに同量の水を加えてよく混ぜ、筆に含ませて和紙の裏側に塗り、二〜三種類、調和よく貝に重ね貼りする。はみ出た部分ははさみで切って少し内側に押し込む。（貝の縁に和紙があると、二枚の貝を合わせにくくなる。）
- ⑤ よく乾かしてから、筆などで文字を書く。

3 実施にあたって

毛筆で文字を書くことに苦手意識をもっている生徒もいるため、サインペンで書いたり、極細の綿棒にアクリル絵の具をつけて書くなど、用具の範囲を広げる配慮も必要である。また、授業だけでなく、文化祭のワークショップでの感想の一部としても活用できる。以下はそのワークショップでの感想の一部である。興味深く取り組んでくれたのでよくわかりました。小筆で名前を書くときより、とてもすてきに字が書けました。（小3・男子）

○少し難しかったけど、できあがったときはとてもうれしかったです。今、学校で百人一首をやっているの、これを学校に持っていけば、みんな「やりたい！」と言うと思います。（小5・女子）

○高校で書道を選択していて、書にとても興味があります。とても楽しく、いい作品を作らせていただき、ありがとうございます。ぜひ、高校の授業に持っていきたいと思います。（高2・女子）



## 書写の知識を確認するための 問題サンプル

山梨大学教授 宮澤 正明

前回、書写の知識に関する学習内容を確認することは、書写力向上に寄与すると述べ、そのうえで、「書写の知識」の問題作成を試みていただきたい、とお願いをしました。そこで、今回は、サンプルとしていくつか紹介してみます。問題作成の参考にしてください。

### 【文字を書く姿勢について】

○文字を書く適切な姿勢として、①足の位置、②背すじの形、③左手の位置は、それぞれ次に示した図（省略）のようになります。なぜそのような位置や形がよいとされるのか、その理由を述べなさい。

### 【鉛筆の持ち方】

○鉛筆の適切な持ち方は、次の図（省略）の中でどれでしょうか。また、不適切な持ち方では、どのような影響が出ることが予想されますか。

○「広」の中心は一点目の点です。では内部の「ム」はどの位置に書くとき字は正しいとしますか。実際に書いて、その位置を説明しなさい。また、その理由も述べなさい。

### 【行書について】

○次の文中、（ ）の中に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。

楷書を速く書くと、自然に点画に①（ ）が出て、終筆の止めや払いなどに②（ ）が生じます。また、点画と点画が③（ ）したり、場合によっては点画が④（ ）されたりもします。これらの速書の特徴をもち、様式化された書体を⑤（ ）といいます。

答え.. ①丸み ②変化 ③連続 ④省略 ⑤行書

○次の楷書で示された語句の漢字を、行書に書き改めなさい。また、楷書と比べてどのような違いがあるか述べなさい。

ここで例示した問題については、教科書や学習指導書に詳しく解説されている部分があります。これらの例を参考に、学級や学校の実態に合った問題を作成していただきたいと思います。

小学校国語科書写では、文字の骨格やその書き方の基礎・基本を中心に学習します。中学校国語科書写では、基礎・基本を踏ま

### 【筆順について】

○筆順と字形には深い関係があります。「右」と「左」それぞれの一点目と二画目は筆順が異なりますが、両者の筆順を示し、筆順と字形との関係について述べなさい。

○「成」と「原」それぞれの一点目と二画目に書かれる点画名を書きなさい。また、一点目と二画目の接し方はそれぞれどのようなになっているか述べなさい。

### 【点画の名称と筆使いについて】

○次の語の中で、一部点画が書かれていない漢字があります。その部分に点画を補い、その点画名を記しなさい。（「見学」で「見」「学」それぞれの七画目を隠す、など）

○次に示した漢字には不適切な点画が書かれています。その点画に○印をつけ、正しい点画によって漢字を書き直しなさい。（「心」のそりが曲がりや折れになっている、など）

○「お・す・み・む」にはそれぞれ「結び」の筆使いがあります。結びを書くとき、それぞれ三角形に書かれますが、それはなぜですか。毛筆のもっている機能や性質を考慮して述べなさい。

○「水」の一点目の縦画は、はねています。これはねた筆先は次にどのような動きをするのか、平面上に点線で示しなさい。また、なぜはねる必要があるのか述べなさい。

### 【字形 組み立て方を主に】

○「土」が土偏に、「木」が木偏になるとき、それぞれの形は変化しますが、共通する変化はどこなところですか。「土地」、「木村」を楷書で書いて説明しなさい。

え、書写活動の目的や場面に合わせながら適切に書くことができ、能力を養うことが求められています。

今日の社会生活における手書き文字の量は、社会のIT化とともに減少傾向にあります。義務教育において、書写は軽視できない学習であると言えます。それは、これまでにも述べてきたことですが、

- ・手で文字・文を書くことが記憶力に関わること
- ・指先の巧緻性を向上するために筆記具を用いることが有効なこと
- ・手書き文字には、文字の意味する内容だけでなく、書き手のそのときの心情や状態などが付加されやすく、書かれた文字・文以外の情報が加わること
- ・手で文字を書くことが「書」という芸術にもなりうる文化としての行為であること

などです。

このように、書写力は、国語力の一つである文字言語運用力として、人が生きていくうえで必要不可欠な能力であることを忘れてはならないでしょう。

新学習指導要領の方向性が示されようとしている今、改めて、中学校国語科書写の意義・目的を確認するとともに、生徒の書写力向上のための授業、文字環境を学校全体で見つめていただきたいと思います。

## 教科書編集部便り

平成十八年度に改訂された教科書が学校現場で使用されるようになって一年余りがたちました。この間にも、文化審答申や中教審審議経過報告など、教育に関するさまざまな動きがありました。編集部では、これらの動きや、現場の先生方からのアンケートなどをもとに、次の改訂に向けて準備を進めているところです。改訂のたびに、教科書全体を一から見直し、教材内容や構成などについて検討を重ねております。ここでは、その一例をご紹介します。

### 色の使い方に關して（色覚特性をもつ生徒への配慮）

光村図書の教科書では、色覚特性をもつ生徒が無理なく学習できるように、紙面構成を工夫しています。例えば、二年生「資料の工夫」223ページの折れ線グラフでは、学年の区別を色だけでなく、数値を表す点の形（○□△）からもわかるようにしています。また棒の複合グラフでは、各学年の色の間に境界線を入れて見分けやすくしました。さらに、どちらのグラフも、凡例ではなくグラフ自体に学年を書き入れる形にし、たとえ色の違いがわかりづらくても、文字から情報を読み取れるようにしています。このように、色のほかに情報を加えることで、見やすい紙面になるよう配慮しています。編集の過程で、色覚特性の専門家にチェックをお願いしていますが、今後も、目に優しく、美しいデザインを心がけながら、すべての生徒が楽しく充実した学びを体験できるよう工夫していきたいと考えております。

## 広報部便り

### 言語教育振興財団研究助成金 申請募集

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、優れた研究開発を行う個人又は団体に対して助成します。

#### ◇助成内容

- ① 言語教育の内容・方法に関するもの
- ② 言語教育教材の質的向上に関するもの
- ③ 教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの

#### ◇応募資格

小・中・高等学校で国語、英語、日本語教育を担当する教員  
個人・団体（研究団体、学校（学年単位も含む））

#### ◇助成件数及び金額

助成件数は八十件までとする。

助成金額は一件につき二十万～五十万円とする。

#### ◇応募方法・締め切り

所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書又は実践報告書等の参考書類を添えて、十二月二十六日（水）必着で当財団事務局に郵送。（返信用封筒を同封のこと）

#### ◇決定・発表

当財団「選考委員会」による選考を行い、平成二十年二月中旬に決定通知をします。

#### ◇問い合わせ先

財団法人「言語教育振興財団」事務局  
〒一四一・〇〇二一 東京都品川区上大崎二・十九・九  
TEL 〇三（三四九三）七三四〇  
FAX 〇三（三四九三）二一七四

### 一年生第五単元『未来をひらく微生物』について

この教材の執筆依頼のため、著者である大島泰郎先生のもとに担当編集者であるKが伺ったとき、その心の中は不安でいっぱいでした。微生物を利用した環境への取り組みを教材にしたいと考えたものの、複数の資料や本を読んでも難解で、中学生にわかりやすい内容になるだろうかと思っただけです。しかし、それは杞憂でした。研究室で出てきた大島先生は、微生物やバイオテクノロジー、環境問題への取り組みを易しく丁寧に説明してくださいました。その後の教材化の過程でも、先生は、全国の中学生が使うものだからと、わかりやすい具体例や比喻を考えたり、一年生の理科学習を考慮しながら語句を選んだり、細心の注意を払ってくださいました。128ページにある乳酸菌と大腸菌の写真は、「きれいな写真がいいでしょう」と先生自ら手配されたものです。教科書が使われる年に、Kが先生からいただいた年賀状には、「全国の中学生たちがどんな反応をするか、とても楽しみです」と書かれていました。

教科書教材にはその一つひとつに、それぞれの先生の願いがたっぷり込められているのです。

### お知らせ

「中学校国語教育相談室」では、今回より「教師力講座」と「教材の径」の二つのコーナーを新設しました。

「教師力講座」は、国語の授業を中心とした、さまざまな悩みを取り上げ、明日からの授業に役立つポイントを具体的に紹介していきます。

「教材の径」は、教材研究の新たな切り口や、教材分析の視点のあて方などについてご提案していきます。

また、この「掲示板」では、教科書編集部から、教材についてのエピソードをお届けしたり、よくあるご質問についてお答えしていきたいと思っております。

ホームページ「光村チャンネル」も随時更新中です。会員専用ページ「わたしの授業」では、国語を中心としたアイデア豊かな指導案がご覧いただけます。会員登録は無料です。ぜひ活用ください。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！

FAX 〇三（三四九三）五四八三  
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

わたしの授業

国語 小学校

国語 中学校

1年 2年 3年

4年 5年 6年

書写 小学校

書写 中学校

生活

英語 小学校

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

平成18～21年度版 中学校国語教科書準拠 指導用ソフトウェア

大好評  
絶賛  
発売中!

光村

# 国語デジタル教科書

中学校版



## もっと、国語が好きになる。

光村「国語デジタル教科書」は、教科書をそのまま拡大することで、  
全員で同じ画面に注目しながら学習できる指導用ソフトウェアです。  
みんなで文章について意見交換をしたり、動画を見てなるほど! と思ったり。  
教科書を立体的に活用することで、確実に国語の力が向上します。

(本ソフトウェアの使用にあたっては、プロジェクト等の拡大提示装置が必要となります。)

### 「話す・聞く」編 (1～3年収録)

学校フリーライセンス  
税込 52,500円(本体50,000円)

### 古典編 (1～3年収録)

学校フリーライセンス  
税込 52,500円(本体50,000円)

※「学校フリーライセンス」とは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

ただいま体験版配布中! 詳しい内容、体験版のお申し込みは、下記ホームページをご覧ください。

光村図書出版株式会社  
www.mitsumura-tosho.co.jp

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9  
TEL.03-3493-5741 (デジタル教科書お客様窓口) FAX.03-3493-5483  
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

## 「光村の本」好評発売中!

### 飛ぶ教室

大人の本の作家と子どもの本の作家が交流する。バトルする。新しい書き手が参加する。挑戦する。児童文学の冒険、ふたたび!

| 特集名                             | 本体価格 | 定価    | 判型  |
|---------------------------------|------|-------|-----|
| 2007秋 11号 石井桃子と児童文学の100年(10月発売) | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2007夏 10号 動物園へ行こう(最新刊)          | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2007春 9号 創作特集                   | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2007冬 8号 柴田元幸の「飛ぶ教室」的文学講座       | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2006秋 7号 はぼ まるごと一冊 長新太          | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2006夏 6号 プーの森で語り明かそう            | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2006春 5号 創作特集                   | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2006冬 4号 トーベ・ヤンソンのもうひとつの顔       | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2005秋 3号 神沢利子の世界                | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2005夏 2号 少女小説の知的なくらみ            | 952  | 1,000 | B5変 |
| 2005春 1号 復刊特別号                  | 952  | 1,000 | B5変 |
| 年4回(1・4・7・10月)発売                |      |       |     |

### ベストエッセイ

日本文藝家協会編。人生の機微に触れる珠玉のエッセイ・アンソロジー!

| 書名                         | 本体価格  | 定価    | 判型  |
|----------------------------|-------|-------|-----|
| ベスト・エッセイ 2007 老いたるいたち(最新刊) | 2,000 | 2,100 | 四六判 |
| ベスト・エッセイ 2006 意地悪な人        | 2,000 | 2,100 | 四六判 |
| ベスト・エッセイ 2005 成り行きにまかせて    | 2,000 | 2,100 | 四六判 |
| ベスト・エッセイ 2004 犬のため息        | 2,000 | 2,100 | 四六判 |
| ベスト・エッセイ 2003 花祭りとバーミヤンの大仏 | 2,000 | 2,100 | 四六判 |
| ベスト・エッセイ 2002 落葉の坂道        | 2,000 | 2,100 | 四六判 |

### 光村ライブラリー

教科書で習ったあのなつかしい作品が、今よみがえる。

| 書名                   | 本体価格   | 定価     | 判型 |
|----------------------|--------|--------|----|
| 光村ライブラリー中学校編 全5巻セット  | 5,000  | 5,250  | 菊判 |
| 光村ライブラリー中学校編 各巻      | 1,000  | 1,050  | 菊判 |
| 光村ライブラリー小学校編 全18巻セット | 18,000 | 18,900 | 菊判 |
| 光村ライブラリー小学校編 各巻      | 1,000  | 1,050  | 菊判 |

### 名詩の世界

西郷竹彦著。著者自ら小学校・中学校・高等学校の現場で授業した経験が生きる。

| 書名                        | 本体価格  | 定価    | 判型  |
|---------------------------|-------|-------|-----|
| 西郷文芸学入門講座 第1巻 第3巻 第5巻 第6巻 | 2,095 | 2,200 | A5判 |
| 西郷文芸学入門講座 第2巻 第4巻 第7巻     | 2,381 | 2,500 | A5判 |

### 漢字ステージ100

小中一貫教育先駆的な教育特区品川区と国語の光村図書が共同開発。

| 書名                       | 本体価格 | 定価  | 判型  |
|--------------------------|------|-----|-----|
| 漢字ステージ100 1・2年生          | 905  | 950 | B5横 |
| 漢字ステージ100 3・4年生          | 905  | 950 | B5横 |
| 漢字ステージ100 5・6・7年生(8・9年生) | 905  | 950 | B5横 |

### ジュニアコロンブス21

小学生のための英語テキスト。英語を使ったコミュニケーションの楽しさを、子どもたちと一緒に実感してください。

| 書名                                          | 本体価格  | 定価    | 判型  |
|---------------------------------------------|-------|-------|-----|
| JUNIOR COLUMBUS 21 児童用テキストBOOK1(3・4年用)      | 524   | 550   | B5判 |
| JUNIOR COLUMBUS 21 児童用テキストBOOK2(5・6年用)      | 524   | 550   | B5判 |
| JUNIOR COLUMBUS 21 指導書BOOK1(CD3枚・別冊ブックレット付) | 4,571 | 4,800 | B5判 |
| JUNIOR COLUMBUS 21 指導書BOOK2(CD3枚・別冊ブックレット付) | 4,571 | 4,800 | B5判 |

### 新版中日交流標準日本語

中国人学習者のための総合日本語テキストの決定版!

| 書名                          | 本体価格  | 定価    | 判型  |
|-----------------------------|-------|-------|-----|
| 新版中日交流 標準日本語 初級上下巻セット(分売不可) | 4,000 | 4,200 | B5判 |
| 新版中日交流 標準日本語 初級CD(6枚組み)     | 3,000 | 3,150 | —   |
| 光村図書・人民教育出版社共同編集            |       |       |     |

光村の好評ロングセラー。国語教育の至宝と画集。

| 書名             | 本体価格    | 定価      | 判型  |
|----------------|---------|---------|-----|
| 近代国語教育論体系 全20巻 | 172,816 | 181,457 | 菊判  |
| 近代国語教育論体系 増補5巻 | 43,205  | 45,365  | 菊判  |
| 画集「野田弘志」       | 43,000  | 45,150  | B4変 |

●全国の書店および、弊社HP(光村チャンネル<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> からオンラインショッピングをクリック)にてお求めいただけます。